

風疹について

風疹とは、風疹ウイルスによっておこる発疹性の急性感染症です。2013年、全国的に風疹患者が急増し社会的問題となったことは記憶に新しいと思います。同年の患者報告数は約1万4千人にも上りました。

風疹ウイルスは患者さんの飛沫（くしゃみ、咳の唾液のしぶき）によって他の人に感染します。主な症状には、発疹、発熱、リンパ節の腫れがあり、基本的には予後良好な病気ですが、まれに脳炎や溶血性貧血などの合併症を起こすこともあります。最大の問題は、妊娠初期の妊婦さんが風疹にかかると風疹ウイルスが胎児に感染し、難聴、心疾患、白内障、精神や身体の発達の遅れなどの「先天性風疹症候群」と呼ばれる障害を引き起こす可能性があることです。残念なことに、2013年は年間32名の報告があり、2014年も

既に数名の報告があります。治療はウイルス自体に対するものではなく、対症療法のみとなるため、予防が大切です。

風疹予防にはワクチンを受けて免疫を獲得することが必要です。今回の流行の背景には、20代～40代後半位の人に免疫のない人が多かったことがあります。2006年度から風疹ワクチンと麻疹ワクチンを混合したMRワクチンを小児期に2回接種する制度が導入されました。

今後流行を起こさないためにも、男女ともに確実にワクチン接種を行うことが重要です。成人でも風疹ワクチンを受けたことがない人はワクチンの接種をお勧めします。

JA広島総合病院
小児科 田邊真奈美
